



元気100倍 優しさ無限大 心を一つに 富隈キッズ

とみくまっ子

霧島市立富隈小学校 学校だより 平成27年度 12月号



自分の言動を映す「心の鏡」を持った子に

校長 前田 正弘

11月9日～12月4日は校内人権月間でした。様々な取組を行いましたが、メインは各学級の代表が発表する11月26・27日の人権作文交流会です。この交流会に向け、各学級では自分の悩みを伝え合い互いを理解し合う取組を行いました。

自分の名前をからかわれたこと、「死ね」などいやなことを言われたこと、あだ名で呼ばれたことなど、悪口に関することが多く出されました。逆に、温かい言葉ももらえて前向きになれたことや友達に声をかけて手伝えるようになったことなども出されました。

良くも悪くも、言葉は大切なものだと感じます。星野富弘さんという方が書いた「鏡に映る顔」という詩を思い出しました。

星野さんは、中学校で体育を教えていたときの事故で手足が動かなくなり、それ以来、ベッドで暮らさなければならなくなった方です。紹介した詩も、筆を口にくわえて書かれた詩の一つで



鏡に映る顔

星野富弘

鏡に映る 顔を見ながら 思った
もう 悪口を いうのは やめよう
私の口から 出た ことばを
いちばん近くで 聞くのは 私の耳なのだから

す。

読んでみると、なるほどそのとおりだなと思います。誰でも気に入らないことがあると、ついつい人の悪口を言ってしまいます。でも、悪口を言うと、それを最初に聞くのは自分。星野さんは、まるで自分に言

われているように感じたのでしょうか。

星野さんは、もしかしたら、自分の心や行いを映し出す心の鏡があるといいと言いたいのかもしれません。意地悪な自分をいちばん知っているのは、意地悪をした自分自身です。自分も自分のした行いや言葉で傷ついてしまいます。自分の心の中の鏡に自分の行いや言葉を映し出して自分を振り返り、友達も自分も傷つけない人になってほしいと思います。

子供たちは、時に些細なことで喧嘩したり、気に入らないと意地悪をしてしまったりします。そして、相手のせいにする事で自分の行いを正当化しがちです。それが、一方的なものであればいじめにつながっていきます。曇りのない「心の鏡」を持たせたいものです。

子供たちの成長を実感した2学期

さて、2学期は、秋の大運動会や市の陸上記録会、持久走大会などのスポーツ面、市の小中音楽のつどいなどの文化面、そして教育週間における学習の様子公開と、様々な行事を通して子供たちが大きく成長しました。一生懸命課題に向き合ったとき、子供たちは必ず成長します。3学期はまとめの学期。しっかりと締めくくりたいものです。引き続きご協力をお願いします。

